

# 科学技術イノベーション政策におけるシンクタンクの役割と課題

東京大学大学院法学政治学研究科・公共政策  
大学院・政策ビジョン研究センター

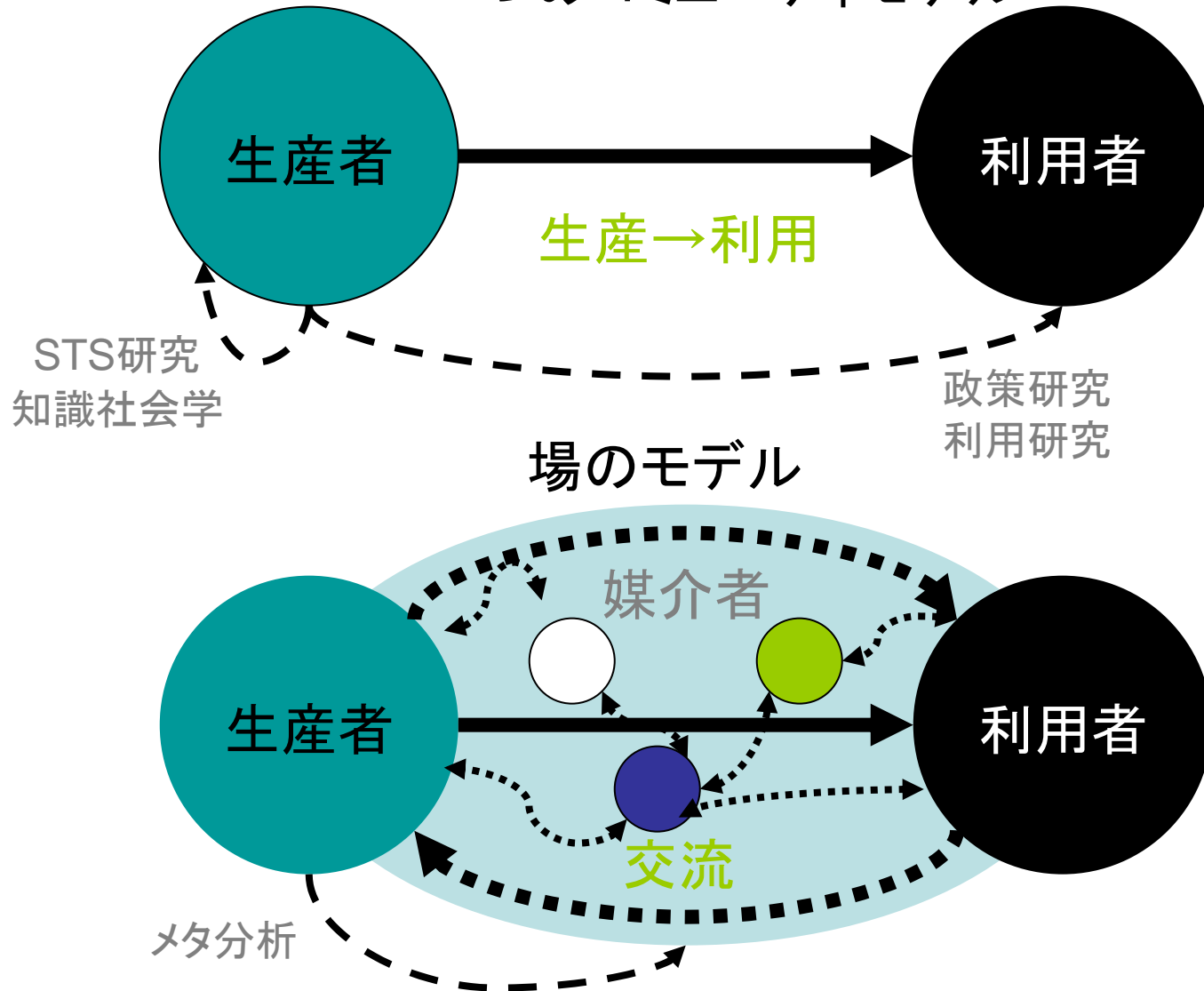
城山英明

# 科学技術基本計画策定過程における課題－利用からの視座

- 知識生産
  - － 問題設定が必ずしも適切でない－課題設定の活性化・共有の重要性
  - － 実践知に対する理論知の絶対的不足、実践知と理論知の乖離
- 知識利用
  - － 系統化・制度化された利用はなく、生産者への属人性が高い
  - － 何が問題なのか、何が必要な情報・知識なのか十分に把握できていない
  - － 知識利用者が課題を伝達する必要
- 知識交流
  - － 審議会による外部-公式的な知識生産・交流の拡充により、交流の場の多様性が少なくなりつつある
- プロセス
  - － 各生産・利用・交流主体の公式化が進展(政治的・社会的慣性)
  - － 生産・利用・交流に関わる組織が限られる
  - － 知識交流(knowledge exchange)の重要性

# 知識生産・利用・交流のモデル

二つのコミュニティモデル



吉澤「知識政策論における知識交流」、城山・吉澤・鎗目・秋吉・田原『政策分析及び政策分析手法研究報告書—イノベーション政策策定プロセスにおける知識生産・利用・交流』内閣府経済社会総合研究所「平成20年度イノベーション政策及び政策分析手法に関する国際共同研究」報告論文（未来工学研究所、2009年3月、18-22頁）、および、吉澤・田原「政策研究は科学技術政策の役に立っているのか—科学技術基本計画における知識利用に着目して」『研究・技術計画学会第23回年次学術大会講演要旨集』（2008年10月、220-223頁）をもとに作成

# 科学技術イノベーション政策形成のどの段階でシンクタンクが役割を果たすのか？－課題設定、政策選択肢評価の段階におけるアセスメントの重要性－例：テクノロジーアセスメント(TA)、規制影響評価(RIA)

- TA: **技術**のさまざまな社会的影響を予期し、社会的対応案を提示することで、技術や社会のあり方についての問題提起や意思決定を支援する制度や活動－科学技術について考慮すべき目的や価値の多様性を示す
- RIA: **規制・制度等(＝社会的技術)**の多次的的影響を評価
- 留意点: 戦略形成からの一定距離と寄与
- 分野やセクターを横断的につなぐ高いコミュニケーション能力・マネジメント能力の重要性

# シンクタンクが日本で制度として定着しなかった原因(事例としてのTA)

## －歴史的教訓

- 1960年代、1970年代におけるシンクタンクへの関心
  - － NIRA(＝政府外の政府系機関)
  - － 未来工学研究所等

### <TAの場合の問題>

- 初期の方法論的問題- 定量的手法への関心、関係者関与欠如
  - － 「トータルシステムアプローチ」－ 価値の次元を扱い得るか？
  - － 幅広い**ステークホルダーを明示的に巻き込む努力の欠如**  
cf. policy analysis とpolicy design
- 制度化の問題－フィードバック欠如、**民間機関の脆弱な財政基盤**
  - － 報告の質は高いものもあるが政策過程にフィードバックされない－フィードバックチャンネルの観念が狭い: 政策決定直結を期待←→課題設定への寄与
  - － 産業界が中心となった民間レベルでの興味深い試み、しかし基盤的財政の欠如－受託研究依存で課題設定の自律性を失う

# シンクタンク制度化オプション

## cf. 2. 3. を中心とする第三世代のシンクタンク？

1. 政府－議会の関心確保、分野横断性、恒常性の確保
  - － 議会組織（国会図書館を含む）－衆議院科学技術イノベーション特別委員会等
  - － 内閣府(総合科学技術会議、科学技術イノベーション戦略本部(仮称)、「特別の機関」としての日本学術会議)
  - － 個別分野(HTA等個別分野でのルーティーン的関心－医薬品・医療機器の保険収載、価格設定をめぐる認識の変化)
2. 資金枠の設定
  - － 米国同様に研究開発資金の一定比率を配分－科学技術イノベーション政策の科学等
  - － 実施については大学、研究所等自律的機関が受け皿
3. 研究開発機関/企業/NGO－ステークホルダー自身による政策研究実施の支援
  - － 産業界組織、産業界組織・NGO連携、大学内組織(例: 東京大学政策ビジョン研究センター: Policy Alternatives Research Institute)
  - － 個別研究開発機関における横断的CTA(Constructive TA)部門の可能性
  - － 視野の幅を確保するためには一定の独立性も必要
4. 国際的組織化
  - － Ex. アジアリサーチエリア、EUプログラムとの連携

# 実践的課題

- 安定的財源の確保
  - 総合化・俯瞰能力の重要性—新規性を求める研究開発とは異なる
  - 一定の距離を確保する倫理、安住しない文化の創造必要
- 人材育成とキャリアパス開発
  - 分野横断的でバランスのとれた人材の発掘・トレーニング
  - 研究開発とは異なる評価システムの必要
- ネットワーク化Networking
  - 外部組織とのネットワークの重要性
  - ただし、コアは必要: 期限付きのプロジェクトでは、各課題や外部の主体に対する将来の責任を負いきれず、ネットワークも保ちきれない面も
  - シンクタンクがいかにして社会的信頼を確保するかという問題
- 様々な戦略的知性間の分業—TA、RIA等